主 文

本件再審査請求を棄却する。

事実及び理由

第1 再審査請求の趣旨

再審査請求人（以下「請求人」という。）の再審査請求の趣旨は、労働基準監督署長（以下「監督署長」という。）が平成〇年〇月〇日付けで請求人に対してした労働者災害補償保険法（昭和22年法律第50号。以下「労災保険法」という。）による療養補償給付及び障害補償給付を支給しない旨の処分を取り消すとの裁決を求めることにある。

第2 事案の概要

- 1 請求人は、A会社の事業主として労働保険事務組合に労働保険事務の処理を委託し、労災保険法第34条の規定に基づく第一種特別加入者として、労働局長から承認を受けている者である。
- 2 請求人によると、平成〇年〇月〇日、B内における植樹の準備中、立木の枝を切ろうとして左肩に激痛が走った（以下「本件災害」という。）という。請求人は、同年〇月〇日、C病院に受診し「左変形性肩関節症の増悪」（以下「本件傷病」という。）と診断され、療養の結果、平成〇年〇月〇日、治癒（症状固定）した。
- 3 本件は、請求人が療養補償給付及び障害補償給付を請求したところ、監督署長はこれらを支給しない旨の処分（以下「本件処分」という。）をしたことから、請求人が本件処分の取消しを求める事案である。
- 4 請求人は、労働者災害補償保険審査官（以下「審査官」という。）に対し審査請求をしたところ、審査官が平成〇年〇月〇日付けでこれを棄却する旨の決定をしたことから、更にこの決定を不服として本件再審査請求をした。

第3 当事者の主張の要旨

- 1 請求人
(略)
- 2 原処分庁

(略)

第4 争 点

本件傷病が、業務上の事由によるものであると認められるか。

第5 審査資料

(略)

第6 理 由

1 当審査会の事実認定

(略)

2 当審査会の判断

(1) 請求人は、本件災害は同窓会との口頭契約による記念植樹の準備作業中に生じたものであり、立派な請負契約によるものであって、請求人の事業であるリフォーム業と関係があり、請求人の事業であるから業務上災害に該当すると主張するので、以下検討する。

(2) 特別加入者の業務上外の判断については、決定書理由に説示するとおり、本件災害発生時に従事した請求人の行為が、特別加入申請書に記載された事業のためにする行為であることが労災保険給付の要件であり、特別加入の申請に当たっては、申請に係る事業の労働保険番号を記載することとされているところ、当審査会としても、本件災害発生時に従事していた記念植樹の準備作業については、請求人の事業である建築事業のためにする行為とは認められないものと判断する。

(3) この点、請求人は、土木工事業・建設工事業の建設業許可を受けて事業を営んでいる旨主張するが、労災保険法による特別加入制度の加入事業と建設業法による許可制度の区分とは、直接、関係ないものである。

中小事業主の特別加入とは、成立している保険関係に基づき政府の承認があった場合に、事業主を当該事業の労働者とみなして保険給付を行うものであるところ、請求人は、労働保険の保険料の徴収に関する法律（昭和44年法律第84号）による労災保険分の保険料について、「建築事業（既設建築物設備工事業を除く）」として申告・納付をしている。同記載からすると、本件災害時の作業をもって建設工事に該当する行為であるとみることはもとより、被災者の事業のためにする行為とみることも困難である。また、本件災害時に一緒に作業をした者は、請求人の小中学生の同級生であって事業場の労働者ではない

ことなどの事情を考慮すると、決定書理由に説示するとおり、記念植樹の準備作業は、同窓会と請求人個人との私的な人間関係に基づいて実行された作業であり、請求人が特別加入時に業務として申告した作業を行っていたものとは判断できないものである。

したがって、請求人の主張は採用できない。

(4) 以上のように、本件災害は、業務遂行中に発生したものとは判断できないことから、本件傷病は業務上の事由によるものではなく、当審査会としても、決定書理由に説示するとおり、業務に起因したものではないと判断する。

3 結 論

以上のとおり、本件処分は妥当であって、これらを取り消すべき理由はないから、請求人の本件再審査請求を棄却することとして、主文のとおり裁決する。